

科目名	理解と表現	担当教員	宇都宮輝夫 小山充道 中林秀和 大池京子 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-------	------	---

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	1年次	前期	2単位	講義

科目概要	教育と研究は、適切なコミュニケーション能力なしには成立しない。最初は、言語を文法的に正しく使用することから始まる。しかし談話は単なる文の羅列ではなく、全体として意味をなすよう、順序立てられ筋道を立てられている。こうした言語の駆使能力がコミュニケーションの能力である。しかし、コミュニケーションは単なる情報や知識のやりとりに尽きない。そのためには、たとえば人の話を冷静に聞くことができねばならないし、相手が誠実に答える気をそがれるような仕方では質問してはならない。一言で言えば、社会の中で正常に他人と交わり、共感を持って共生していく対人関係の維持・構築能力が不可欠である。この授業は学生にこのような広い意味でのコミュニケーション力をつけさせる。
学習目標	ものを考える出発点は、何かを不思議に思ったり、疑問を抱いたりすることである。そうした経験があってはじめて人間はものを考える。次は、そこで抱いた疑問について他の人が何か述べていないか調べるべきである。その際には、人の意見を鵜呑みにするのではなく、その妥当性を根拠にさかのぼって吟味しなければならない。これが批判的思考である。そうするなかで自分が納得できたことをとりまとめて人に伝達したり、自分なりの発見を発表したりする。そこでは、何をどのような順番で述べていくかということを手前の立場に立って考えなければならない。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	イントロダクション	「患者に寄り添う」「共感を持って理解する」。しばしば耳にする言葉であるが、そもそも他者を理解することなどできるのか。理解を可能にする原理を考えてみたい。	アクティブラーニングやクリティカルリーディングがいかなるものかについても学ぶ。	
2	正確な読解(1)	文献を正確に読むのは、学習の基本中の基本である。そのためには、ただ訓練あるのみである。大学入試の国語問題文、新聞の論説、短い学術論文、事務的な報告文など、多様な文を多く読みこなしながら、趣旨を正確に読み取れるようにする。同時に、それらの文が核心的主張をどのように提示していくか、その手順を学ぶ。	論理構成を正しく追い、趣旨を正確に理解できるようにする。	
3	批判的に考えながら読む(1)	主張には根拠がある。しかし提示される根拠には妥当性のないものがある。事実誤認がないか、論理的に正しい推論がなされているか、論理同士が緊密につながって飛躍がないかを考えながら読む。また、原因と結果の正しい因果関係か疑似相関かを見きわめる。不適切な文章の例題をも多く読み、正しい思考法を学ぶ。	論理の正しい結びつきと見せかけの結びつきを区別できるようになる。論理の飛躍に気がつくようになる。	
4	文章作成の方法(1)	明晰な文章を作成するためには、その作成法をマニュアル式に一度学べばよいというものではない。作成法の基本事項に気をつけながら、実際に自分で多くの文章を書いてみなければならない。 ・自分の主張したい発見の核心を自分自身に対してははっきりさせる。言いたいことが自分でもはっきりしなければ、他人に伝わるわけがないからである。 ・それを表現する標語やタイトルを考える。 ・自分が主張したい諸命題を列記し、そのなかから文章に実際に盛り込むものと捨てるものを選別する。 ・諸命題をどのような順序で提示すべきかを考える。	毎回、短い論説を書いて提出する。添削をして返却するので、訂正の意図を考えること。自分に対する訂正だけでなく、他の学生に対する訂正をも考えること。	
5	文章作成の方法(2)	同上	同上	

6	コミュニケーション力関連の論文の理解	心理学で取り上げられる「コミュニケーション力」をテーマとした論文を読む。具体的には「心」「関係」「コミュニケーション」をキーワードとして、これに関わる代表的な論文を読み、内容の理解を深めるとともに、各自が論説文の執筆を試みる。視点を「論文執筆の際、自分が主張したいことをどのように伝えとよいか」に定め、講義を展開していく。 論文の著者は「いかに自分の主張を伝えようとしているか」について解き明かしていく。	論文執筆において、いかに自分の主張を伝えるとよいか、そのプロセスについて理解できる。
7	論説文の執筆 (1)	自分の主張をどのように論文の中に織り込むか、論説文を書く。構成力の視点から検討。	論説文の書き方、とりわけ起承転結、等、構成力の視点から理解できる。
8	論説文の執筆 (2)	論説文を「テーマ、表記法、主張展開、結論の出し方」等、表現力の視点から検討する。	論説文の検討から、自分自身の思考・経験をもとにした自己表現のありようが理解できる。
9	学生執筆の論説文の検討	学生が執筆した論説文を全員で検討する。	各自が書いた論説文について吟味検討する機会を与えることにより、自らの論説文の内容について個人評価できる。
10	学問の方法 (自然科学)	科学的思考方法とは何か。優れた科学論文を例にして、科学研究の方法を理解する。	短文の科学論文を読み、内容を把握して文章にまとめることができる。
11	文献検索方法	PubMed、メディカルオンラインなどの文献検索サイトの使用方法を学び、インターネットを活用して情報を収集する。	インターネットを使いこなし、情報の収集方法を熟知する。
12	情報リテラシー	情報リテラシーの基礎、コンピュータスキルの基本を学ぶ。数と単位の表し方を学ぶ。	マイクロソフトオフィスを使いこなす。Wordで文章をかく、PowerPointで発表する、Excellで表計算やグラフ、表を作成することができる。
13	ヘルスリテラシー	健康に関する論文を検索し、内容を解りやすく要約する。治験の二重盲検法、コホート研究（前向き、後ろ向き）と症例対照研究を学ぶ。	興味のある健康や疾病に関する情報を調査・検索し、簡単な文章に書き表すことができる。
14	英語の文章構造を把握し、表現に活かす	個人、ペア、グループ活動をしなが、短いメッセージを読み取る作業を通して、英語の文章構造を捉える。また、メッセージから受け取った感想を書き、交流し合う。	英文の骨格と文章作成の仕方を理解し、自分の思いを簡単な英文に表すことができる。互いに考えを伝え合うことの意義を改めて体験する。
15	英語の段落構造を捉え、表現に活かす	個人、ペア、グループ活動をしなが、英語の段落構成を捉える。また、ディクテーション等の作業をベースにして、自己紹介や将来の目標を含んだ短い段落を書きあげる。	英語の段落構成を理解し、自己紹介の段落を作成する。
評価方法		筆記試験 (50%) と宿題レポート (50%) で評価する。	
教科図書		教員作成資料を用いる。	
参考図書		各回の授業時に教示する。	
学習の準備		毎回の授業で宿題と予習内容を指示する。	
担当教員欄に※印を付した教員の実務経験			